

校内で

遊びまわる2日間

1DAY参加もOKの
学校キャンプ



スネイチャーゲーム

北陽小学校区青少年育成協議会 平 だけし

長崎市北部、滑石地区の住宅街の中にある北陽小学校では、毎年、夏休みに入ったばかりの週末に、校内の施設や自然で遊んだり、多目的室に寝泊まりしたりする「学校キャンプ」を育友会・おやじの会・北陽小育成協主催で実施しています。(約60人参加)

竹の器づくりやボール遊び、スライカ割りや花火大会、校内きもちだめし、そうめん流しなど、盛りだくさんのプログラムで、子どもたちはもちろん、参加したお父さんやお母さんも一緒に楽しくおのがこのキャンプの特徴。2日目の早朝に行うスネイチャーゲームでは、自然遊びの達人を招き、学校内の植物や生物たちをじっくりと観察。今まで見逃していた身近な自然に「あった！あった！！」「すげえ！！」など親子で大喜び。

参加した保護者からは「来年も楽しみにします！！」「私が楽しみました(笑)」など嬉しいご意見も多く、今では北陽小学校の夏の風物詩となっています。



そうめん流し

日見公園は 子どもの笑顔がいっぱい

日見中学校区青少年育成協議会 森橋 めぐみ

日見地区育成協議会では、地域の子どもの健全育成の為にこれまで「子どもと大人の交流会」「日見地区大清掃」「ファミリア」から、子ども会の加入率は東部の他の地域が70%～80%を超えるなか、日見は17%と厳しい現実をつきつけられています。

「もっと子ども会を知って欲しい」「もっと子ども達に色々な経験をして欲しい」という育成協の思いを一つに「日見子ども会フェスティバル」を開催しました。準備の段階から子ども達が主役となり、子ども会ごとに遊びのコースを作りました。人数が少なく単独子ども会でコースを出すのが難しいところは合同で準備し、子ども会同士で支えあう事ができました。

当日、日見公園は大人も子どもも汗だくになり、生き生きと輝く笑顔でいっぱい！ その笑顔の輪が少しずつ広がり、子ども会が活性化し、発展していくことを願っています。



日見桜丘・岡下子ども会による
ファミリア早飲み

芝塚子ども会によるわなげ

編集後記

今年は、全国的な猛暑、台風10号の迷走と被害甚大という、まさに異常な夏となりました。暑さに負けずに各地域でラジオ体操はもちろん、子どもたちを主役とした様々な行事が行われました。ある自治会では20名余りのかわいいう夏祭、ある学童クラブでは初めて花火大会を近所の公園で実施した等々です。猛暑に負けずに子どもたちへ熱い思いを残していたいただいた地域の皆さん、お疲れ様でした！

のびゆく長崎っ子

81

今号の
内容

- ・第39回広島・長崎子ども会親善交歓会
- ・日見中学校区育成協(日見子どもフェスティバル)
- ・北陽小学校区育成協(学校キャンプ)
- ・編集後記

つなげ人と心 地域の輪 きらめく長崎の子どもたち





第39回 広島・長崎子ども会親善交歓会

平和への強い想いを持った子どもたちがお互い都市を交互に訪問して交流を深める広島・長崎子ども会親善交歓会を8月20日～22日の日程で開催しました。3年ぶりの長崎開催となり、長崎団は53名が参加し、広島団の40名と交流しました。
平和公園や原爆落下中心地公園、原爆資料館を訪れ、平和について考えるとともに、市内散策やレクリエーションを通じて新しい友だちとの親睦を深めながら、子ども会のリーダーとしての資質を養いました。

広島・長崎に参加して

私は今回、この交歓会に班付きリーダーではなく、本部として参加することになりました。班付きリーダーや広島の子たちに指示をしたりするのは、とても大変だということを知りました。しかし、私の説明不足の部分があっても、きちんと動いてくれるジュニアリーダーにはとても助かりました。今回、練習をやらせていただいたことは私の人生に色々なことを教えてくれたと思います。

市内散策や原爆資料館の見学の時に、「ジュニアリーダー空」はもちろんです、長崎団の子たちも長崎の名所や原爆についてあまり理解していない部分があったため、次に歓迎するときには、全体が長崎の知識があると、広島の子たちもまた長崎にきたいという気持ちを持つのではないかと思います。

夜のレクリエーションでは、広島の子たちもジュニアリーダーの子たちが引っぱっていったので成功することができました。事前研修のときには、皆むじむじとしており、レクリエーションをするのが恥ずかしそ

ジュニアリーダー空 会長 桂 さちも (高3)

うな印象でしたが、交歓会では広島も長崎も関係なくみんな楽しんでる姿を見ることができてとてもうれしかったです。

今回の交歓会では、指示をする大変さ、まとめることの大変さなど多くのことを学びました。多くの大人の方たちの協力によって、私はこの交歓会をすることができているんだと感じました。今年のジュニアリーダーはレクリエーション慣れをしていなかったり、初めて班付きリーダーになるメンバーも多かったの心配もありましたが、日が経つにつれてどんどんリーダーの顔つきになっていったことにも感謝しました。

私はこの交歓会に小学5年生からずっと関わることができたのがとてもうれしいです。ジュニアリーダーに入ってから多くのことを学ぶことができました。今年でジュニアリーダーは卒業ですが、OGとしてこれからも関わってほしいなと思います。

ジュニアリーダー空 渡邊 寛人 (中3)

私は今回、広島・長崎に2度目の参加で、「ジュニアリーダー空」としての参加は初めてでした。昨年は参加者として広島に行き、2泊3日の活動中から「私もジュニアリーダーになり、皆を引っぱっていき立場に立ってみたい」と思っていました。そして、今回、ジュニアリーダーとして参加をし、リーダーになって皆を引っぱる大変さについて学ぶことができました。

私は昔から人見知りがありなく、すぐに打ち解けて仲良くやっていけるだろと思っていました。ですが現実はその通りではありませんでした。「私は話しかけるが、相手が話してくれない」という場面に何度も出会います、3日間何十回もありました。それに、2日目の市内散策では、まだ私が未熟だから、ジュニアリーダーの方や指導者の方からアドバイスされることもあり、アドバイスの度に「もっと自分がしっかりしな

ければ」と思いました。そして、その日の反省会で広島団のチーフの方から様々なアドバイスをもらったので、3日目に生かすことができ、ここでやっと班をまとめることができました。この大変さを忘れずに、学校での生徒会活動や日々の取り組みに生かしていけたらなあと思います。
私の主な感想は「広島団との友人を10人以上はつくれた」ということです。去年の参加からの知り合いも数人いたけど、それ以外の人も仲良くなれて、もう今ではニックネームで呼び合うほどの仲の良さです。これは長崎団でも同じで、みんながリーダーとして私を信用してくれておかげで、事前研修のときよりも仲良くなれてよかったです。来年もみんなをしっかりとサポートしてあげたいです。

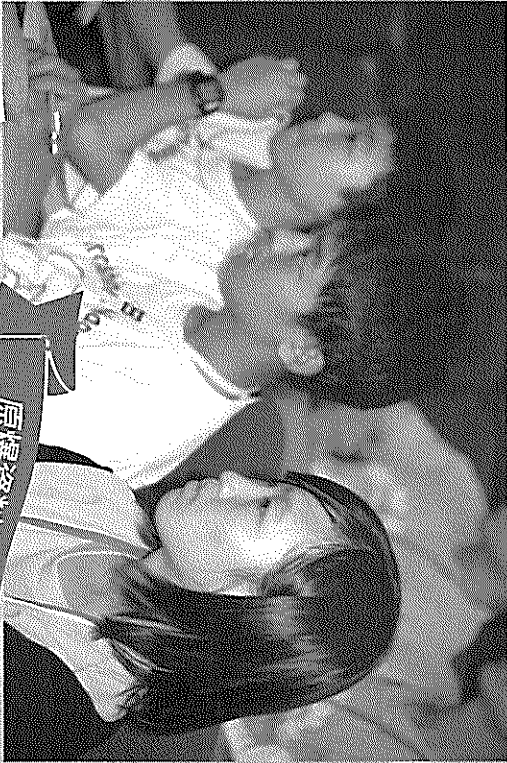
広島・長崎から世界へ

長崎団 犬場 菜生 (小5)

私は今回、初めて参加しました。優しいジュニアリーダーと指導者のみなさんや、新しくできた広島・長崎の友達と行った平和公園などの観光スポット、友達との会話、広島団を見送ったとき、どれも広島団と長崎団を仲良くしてくれたい思い出です。その中で一番心に残ったのが、被爆者の方による被爆講話です。被爆講話で学んだ事は2つあります。
1つ目は、原爆の破壊力の強さです。城山国民学校は、鉄筋コンクリートだったのに全焼してしまいました。そして、そのたった1つの爆弾で、大勢の人々が亡くなってしまったり、やけど、病気になってしまいました。

2つ目は、家族や友達を失う悲しさです。被爆者の方は「原爆が落ちた後、一緒にいたはずの友達がいなくて、家族もだれも帰ってこなかった。8月9日が家族最後の朝食になるなんて考えてもいなかった。」と泣きながら一生懸命に話してくださいました。当時、まだ3年生だったのに、こんなに泣いて悲しい体験をされた被爆者の方が、言葉では表せないほどかわいそうでした。

核兵器は人々を苦しめるおそろしいものです。私たち長崎や広島の人々は、長崎を最後の被爆地にしなければなりません。そのために私は、今も戦争を続けている国々や原爆を知らない人々に「戦争や核兵器は絶対にいけない」と伝えていきたいです。



原爆資料館における被爆講話の聴講



市内散策 (大浦天主堂)



市内散策 (グラバー園)